

令和6年9月三木市教育委員会（定例会）会議録

1 開催日程

- (1) 開 会 令和6年9月20日（金）午後2時
(2) 閉 会 令和6年9月20日（金）午後4時30分

2 場 所 三木市役所 5階 大会議室

3 議事日程

- 第 1 会議録署名委員の指名について
第 2 会議録の承認について
第 3 会議の公開・非公開の決定について
第 4 第 4 号 議 案 令和5年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書について
第 5 協議事項10 「三木市における学校部活動に関する地域クラブ活動への移行ガイドライン」（案）の策定について
第 6 協議事項11 幼保一体化計画の見直しについて
第 7 報 告 事 項 令和6年度の全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組について
第 8 報 告 事 項 各課（室）の所管事項について
第 9 その他
第10 次回定例会の開催日程について

4 出席者

教 育 長	大 北 由 美
委 員	石 井 ひろ美
委 員	中 嶋 直 裕
委 員	梶 正 義
委 員	稲 見 秀 行

5 欠席者 なし

6 事務局出席者

教 育 総 務 部 長 森 田 眞 規

教育振興部長	鍋島健一
教育総務課長	田中栄一
教育施設課長	荒田知宏
生涯学習課長	河端康
図書館長	伊藤真紀
文化・スポーツ課長	手島三知子
学校教育課長	山口正明
教育センター所長	計倉康和
小中一貫教育推進室長	武内克朗
教育・保育課長	仲谷淳
人権推進課長	藤田英子
文化・スポーツ課主幹	福本和也
教育総務課課長補佐	本岡忠明
教育総務課係長	三觜牧恵
教育施設課係長	吉本郁夫

7 傍聴者 なし

開 会

教育長が、令和6年9月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

日程第1 会議録署名委員の指名について

教育長が、三木市教育委員会会議規則第28条の規定により、本日の会議の会議録署名委員に、梶委員及び稲見委員を指名した。

日程第2 会議録の承認について

教育長が、令和6年8月定例会（8月19日開催）の会議録について委員に諮り、「各課（室）の所管事項」に対する発言内容について修正を求める発言があった。教育長が、このことについて委員に諮り、一部修正の

上、承認された。

日程第3 会議の公開・非公開の決定について

教育長が、議事の進行について委員に諮り、協議事項10「三木市における学校部活動に関する地域クラブ活動への移行ガイドライン（案）の策定について」及び協議事項11「幼保一体化計画の見直しについて」は意思形成過程にあるもので、公にすることにより不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあることから、三木市教育委員会会議規則第5条第1項ただし書の規定により、非公開で審議することについて同意された。

日程第4 第4号議案 令和5年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書について

○田中教育総務課長が次のように説明した。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により報告書を作成し、市議会へ提出するとともに公表することについて、委員会の議決を求める。

6月定例会及び7月定例会で協議いただいた内容を踏まえ、最終案を作成した。前回の定例会までに提示できていなかった箇所を中心に説明する。

令和5年度の教育関係経費の決算見込額を令和4年度の決算額と対比する形で、費目ごとに分類・整理した。令和5年度の教育関係経費の決算見込額は約64億6,000万円であり、令和4年度に比べ、約1億1,800万円増加した。増加理由については、小学校費においては旧東吉川幼稚園の園舎及び旧吉川小学校のプール解体撤去工事など、児童福祉費においては志染保育所園舎の増築工事などがある。

外部評価については、兵庫教育大学教職大学院元教授の廣岡徹氏と神戸大学教授の山下晃一氏に評価していただいた。高い評価を得た部分が複数ある一方で、確かな学力の育成では令和7年度の目標達成に向けては「やや心もとない」、環境体験学習等において外部人材の不足が課題となっている点については「事業の在り方自体を見直す時期に差し掛かったと考えることも必要かもしれない」、人権教育啓発の充実においては「若年層の参加比率の高い地区の取組を参考に学習内容等の在り方を検証されたい」など、外部目線ならではの貴重な御指摘もあった。

これらの点については、今一度各所属で点検を行うとともに、改善可能なものから早期に対応を図っていく。

その他7月定例会で委員から御意見及び御指摘等があった箇所についても再考し、書きぶり等を変更したところである。

(石井委員) 外部評価者の基礎学力についての意見は、同じ思いであると感じた。三木市の課題である学力の定着や応用については今後何年かですぐ結果が出るものではないことは承知しているが、外部評価者から指摘された課題が多数あるため、授業の内容を見たり、学校訪問をしたりするなど、これまで以上に一緒に考えていく必要があると感じた。

次年度の評価をする際に、それまでの外部評価者の指摘事項が生かされているか否かを考える材料として、指摘事項をリスト化するなど整理して提供していただけると分かりやすいと考える。

(田中教育総務課長) 教育委員会に設置している委員協議会の中で、例えば、本年5月の委員協議会において、これまでの教育委員からいただいた意見や指摘に対する課題の取組の進捗のほか、点検・評価の現年度の進捗状況に加え、外部委員からの指摘に対する進捗の報告を行っている。施策のPDCAサイクルを回していく必要があるため、今後についても、今、委員がおっしゃったような形で、継続して取り組んでいきたいと考えている。

(中嶋委員) ちょうど1年前に石井委員と同様の思いを持った。外部評価者から大変高い評価を得ている一方で、指標としてめざしている部分に対しては結果が伴っていない部分もある中で、試行錯誤を重ね、検証を重ねてきっちりと指標を見据えて進めることが大事であると考え

る。

「確かな学力の育成」ではICTの活用の部分が外部評価者から高く評価されており、それを生かした展開が大事である。

小中一貫教育については、9年間と長いスパンの中でカリキュラムがしっかりと行われているが、成果を出すためには、検証し、改善や試行錯誤を重ねる必要があると感じた。

(大北教育長) 外部評価者から指摘された新たな課題については、これ

まで指摘されたものに加えた上で、併せて進捗を報告されたい。

(石井委員) 外部評価者から指摘された内容は、解決までにかかる期間が短期から長期まで混在しているため、短期のものと中長期のものを整理し、報告の頻度を変えていただけると分かりやすい。

(田中教育総務課長) 長期的な課題であっても、年に一度は進捗を報告する必要があると考えている。短期で解決できない課題については、次期の教育振興基本計画に盛り込むことも考える必要がある。

(大北教育長) これらの課題を踏まえ、今後、令和7年度の教育の基本方針案を事務局で作成していく。協議の際は、どのような課題に対する取組であるのかを説明する。

教育長が、第4号議案について採決を行い、原案のとおり可決された。

日程第7 報告事項 令和6年度の全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組について

○山口学校教育課長が次のように説明した。

本年度の全国学力・学習状況調査の結果の概要と今後の取組について報告する。

調査対象者は、小学校6年生及び中学校3年生で、小・中学校ともに教科に関する調査と教科調査では把握が困難な「学習に対する関心・意欲や学習方法」などに関する質問紙の調査が実施された。

小学校においては、引き続き、今後の学力向上が課題である。改善の余地があるところについては、更なる学習支援を強化する。

中学校では、若干の変動はあるものの安定した成果がみられ、全体として堅調な結果を維持している。

質問紙調査の結果については、自己実現につながる学力育成三木モデル事業で「主体性・協働性・創造力」の育成をめざしていることから、それらに係る質問項目を抜粋した。

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問では、小学校に比べて中学校では主体的に課題解決しようとする姿勢が低下する傾向にあるものの、小学校から中学校

にかけての減少が小さいため、三木市の中学生は比較的主体的に課題に取り組んでいると考えられる。

話し合い活動は、協働性を育成するために児童生徒が考えを深めたり、新たな気付きを得たりするための重要な要素である。三木市では、小学校と中学校の両方で比較的高い値を示しており、学級内での話し合い活動が効果的に行われていると考えられる。

「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか」という質問は主体性や想像力にも関係するが、三木市では小学校から中学校にかけて8.6ポイント減少している。小学校では地域や社会に貢献したいという気持ちが比較的高い一方で、中学校になるとその意欲が減少する傾向がみられる。

子どもたちのウェルビーイングに関する質問として「学校が楽しいですか」という問いに対し、国・県・市のいずれにおいても小学校から中学校にかけて肯定的な回答が減少しており、中学校で学校に行くことが楽しみではなくなるという傾向があることを示している。

最後に、将来の夢や希望に関する質問では、三木市では小学校から中学校にかけて14.6ポイント減少しており、中学校において将来の夢や希望を持つ生徒の割合が減少している。しかしながら、減少幅は比較的小さく、中学校での将来の夢や希望を持っている割合は、他の地域よりは高い結果であった。

続いて、学力向上のための今後の取組について報告する。9月10日に開催した学力育成プロジェクト会議において、本年度の調査結果を踏まえた学力向上のための今後の取組について協議した。その際の学識経験者や校長の意見を基に、今後の取組の留意点6点をまとめた。どれも大切な留意点であるが、その中で2点について説明する。

まず、「協働的な学びの充実」である。協働的な学びというのは、「一緒に学ぶ」という活動の形態を表しているのではなく、他者の意見を取り入れることにより自分の考えが変わり、学習が深まるという学習の過程をねらいにしている学び方である。個別最適な学びと組み合わせることにより、どの学力状況にある子どもたちにとっても効果的な取組となり得る点に留意し、協働的な学びの充実を更に進めていく。

次に、「分析結果を生かした授業改善」である。各校の授業改善においては、協働的な学びの充実等の具体的な取組を行い、子どもたちが知

識をしっかり活用できているかどうかを授業の中で見定めることが大切である。継続的に児童生徒の変容を確認しながら成長を評価し、教員同士で共有することができるよう、更なる指導と評価の一体化に取り組んでいく。

これらのプロジェクト会議で協議された内容は、各校の研究推進担当が参集する「学力向上委員会」において共有しており、「学びのデジタルガイド」等を活用した実際の授業改善例等も共有する。

学力向上は一朝一夕に達成できるものではないが、調査結果を踏まえた具体的な改善策を講じ、三木市の子どもたちがより高い学力を身に付けることができるよう努めていく。

(石井委員) 質問紙の調査項目の「地域や社会を良くするために何かをしてみたいと思いますか」には、全国と兵庫県と比べても非常に高い値が出ており、小学校も中学校も子どもたちが地域貢献をしたいという気持ちが表れていると感じた。例えば地域のかたも入って協同作業をしながら自分が役に立てることや三木がよくなることを一緒に考えていけるような場をつくるなど、子どもたちのポジティブな心の持ちようを学校やコミュニティ・スクールなどで伸ばしていけたらよいと思う。学力に関しては課題があるが、誰かの役に立ちたいという気持ちは非常に大事なことである。

(梶委員) 質問紙調査の中で、中学生の2割が「学校に行くのは楽しいと思いますか。」で「楽しい」を選んでおらず、「将来の夢や目標を持っていますか。」では3割が持っているとは答えていない。この調査結果を他の資料等から個人とひも付けることは難しいのか教えていただきたい。というのは、この生徒たちに対する丁寧な取組を学校で行っているとは思いますが、この数字には表れていないように感じる。

さまざまな情報にこの結果を重ねて個人を特定できたら、全体への取組の他に何かできることないかということにつながれたらよいと考える。

(山口学校教育課長) 各学校ではそれぞれ個別の子どもたちの学習状況の結果を分析しているため、子どもたちの実態を基にしながら学びが自分たちにどのように役立つかを感じられるような学習活動や取組を行

うことにより、学校が楽しいと感じられるようにしたい。

(大北教育長) 全体への手立てと個への手立ての両方がないと、この2割、3割は減っていかないという御指摘である。

それぞれの学校であれば「学校が楽しいと思わない」「将来に夢や目標を持っていない」を選択した子どもたちに個別にアプローチすることが可能であるため、教育委員会から学校に伝える。

(中嶋委員) 「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか。」という質問に対して全国や県より高い、ポジティブな数値が出ているのに対し、「学校に行くのは楽しいと思えますか。」については、特に中学校では全国や県よりも低くなっており、正反対のデータが出ている。今後、部活動の地域移行が進むと、部活動があるから学校に行くという部分がなくなり、学校の魅力が半減してしまうため、大事な部分であると感じた。

(大北教育長) 社会をよくするためにという設問と、学校に行くのが楽しいかという設問を学校においてクロスで評価することは可能か。

(山口学校教育課長) 学校が楽しいと回答した子どもたちと地域の役に立ちたいと回答した子どもたちをクロス集計し、どういう関連性があるかを分析するという事によろしいか。

(中嶋委員) そのとおりである。学校に行きたくない、学校が楽しくないという気持ちであれば、社会に対するポジティブさがなくなってくると考える。しかしながらそうではないため、その理由を突き止めることができれば、行きたくなる学校づくりのプラスになるのではないか。

(山口学校教育課長) 御指摘のとおり、子どもたちが集団の中で自分の力を生かして役割を果たし、それが充実感や自己肯定感に結び付くことが成長にとって大事であるため、教育活動の中でどのように育成していくかが大事であり、課題が大きくなればなるほど地域の課題につながっていく。クロス分析により関連があることが想像できるため、学校に分析するよう伝える。

(大北教育長) 地域貢献はしたいが学校へ行くのは楽しくないという回答であるため、楽しくなくなる要因が地域貢献以外にあるのかもしれない。学校で分析するよう依頼願う。

部活動が地域移行することにより、登校できていた子どもが登校できなくなる懸念もあるという御指摘をいただいた。文化・スポーツ課において魅力的な地域移行になるよう尽力されたい。

(石井委員) 教育フォーラムに参加した際、教員から魅力ある授業や学校にするためには自己決定できる場面が必要と感じたとの意見があった。

正にそのとおりで、例えば、文化祭や体育祭等の行事で自分たちで意見を出し合い、試行錯誤しながら意見を形に出来たときは、非常に喜びや充実感があり、不登校だった子どもが来ることができたり、来ていない子に対して一緒にやりたいという気持ちが子どもたちの中に湧いてきたりと、自己決定したことが積み重なって形になり、失敗しても成功しても子どもたちの自信につながっていく。

口や手を出したい場面でも、教員は耐えて子どもたちを見守る、寄り添うということを重ねて、子どもたちに自己決定させていけば、地域貢献をしたい、この学校をよくしていきたいという気持ちが生まれてくると考える。今までのように教員が子どもたちに指示をするのではなく、子どもたちが考え、決定していく学校づくりをぜひしていただきたいと感じた。

(大北教育長) 今年の生徒会の交流会で中学校6校がグループに分かれて他校と交流する中で、他校の体育祭や文化祭の取組を聞いて、取り入れたい、変えたいという意見が出ていた。それが自己決定につながれば自信も付き、失敗から学ぶこともある。しばらく時間がかかるかもしれないが、自分たちの学校を自分たちでつくることをめざしている。

日程第8 報告事項 各課(室)の所管事項について

(1) 教育施設課報告事項

○吉本教育施設課係長が次のように報告した。

学校施設整備工事について、志染小学校及び豊地小学校の防犯対策施設整備工事(オートロック)は工事が完了している。

三木市子どもの移動経路安全対策推進会議を8月29日に開催し、国及び県の道路管理者、三木警察署、学校園、市の生活安全課、道路河川課並びに教育施設課の関係機関で協議した。

(石井委員) オートロックは、いつから使用するのか教えていただきたい。

(吉本教育施設課係長) 工事を完了している学校については、既に使用している。

(大北教育長) 本年度に実施予定のオートロック工事は全て完了したのか説明願う。

(吉本教育施設課係長) 小学校は全て完了した。認定こども園及び保育所については未着手である。

(石井委員) オートロックになることのメリットについて教えていただきたい。

(吉本教育施設課係長) 学校関係者以外の不審な侵入を防ぐため正門を施錠し、来訪者がインターフォンで連絡した場合に職員室からロックを解除する。

(石井委員) 例えば、保護者が忘れ物を届けるなどで学校に入りたいときは、そのつど解除を依頼することとなるのか。

(吉本教育施設課係長) 基本的にはそうであるが、細かい運用については学校で決めることとなる。

(中嶋委員) 直接開けに行かずとも、遠隔操作で開扉できるのはかなりのメリットである。

(稲見委員) 通学路の農道が通勤時の抜け道として利用されるケースがあるが、協議されているか教えていただきたい。

(吉本教育施設課係長) 農道ではないが、通学路を車両がかなりのスピードで通り抜けており危険であるという話が出ている。

(大北教育長) 学校園所からの通学路に係る危険箇所の報告を全て教育施設課で精査し、三木市子どもの移動経路安全対策推進会議の関係者で現地調査の上で方針を決定している。

従来は学校が対象であったが、滋賀県の園児の散歩中の事故を受け、認定こども園、保育所及び幼稚園も対象とし、丁寧に危険箇所の確認を行っているところである。

(2) 生涯学習課報告事項

○河端生涯学習課長が次のように報告した。

自由が丘地区敬老会を9月16日の敬老の日に自由が丘公民館で開催し、参加者は89人であった。地区全体で開催しているのは、志染地区と口吉川地区で、その他の地区は対象者が居住する個々の自治会単位で行っている。

令和6年度三木市二十歳の祝典第1回実行委員会を8月23日に市役所で開催し、参加者は12人であった。二十歳の祝典については令和7年1月12日に文化会館で開催予定であり、対象者数の7割である500人程度が参加すると見込んでいる。

第42回緑が丘町文化祭を10月12日及び13日に緑が丘町公民館で開催する。地区の文化祭は、緑が丘町を皮切りに、11月に各地区で開催予定である。

(3) 図書館報告事項

○伊藤図書館長が次のように報告した。

手話でみんなのおはなし会を9月15日に中央図書館で開催し、参加者は19人であった。障害福祉課と連携した事業で、参加した小学生が積極的に手話で手話サークルのかたに話しかけたり、毎回のように参加される聾(ろう)のかたもおられたりと、回を重ねるごとに手話が身近なものとなっているのを感じている。手話や点字に関する本もよく借りられるようになっている。今後も読書バリアフリーに向け、さまざまな部署と連携した事業を開催していく。

絵本講演会を9月23日に中央図書館で開催する。講師は長年にわたり活動している絵本学研究者の正置友子氏で、9年前に、2歳

までの幼児とその保護者を対象とした講演会を開催している。今回は大人を対象に、子どもたちと絵本をつなぐことについて講演する。

(4) 文化・スポーツ課報告事項

○手島文化・スポーツ課長が次のように報告した。

特別講演会「上田桑鳩の魅力」を9月7日にみき歴史資料館で開催し、参加者は110人であった。

ギャラリートーク「桑鳩作品が紡いでいく絆」を9月7日に堀光美術館で開催し、参加者は92人であった。

特別講演会及びギャラリートークについては、申込開始当初から反響が大きく、すぐに定員に達してしまったため、講演会は別室モニターでの参加を、ギャラリートークは立ち見での参加を可能とすることを案内したところ、どちらも定員を大きく超えた。当日は、北海道、長野県及び広島県等の遠方からの参加者もあり、桑鳩先生の魅力で多くのかたとつながりが持てた1日であった。

みなぎの書道展を10月5日から10月13日まで吉川総合公園で開催する。本年度の作品申込みは6,783点で、令和5年度から約850点減少した。少子化の影響及び学校の働き方改革の一環で学校が取りまとめを断ることが増えてきているのが影響していると考えている。

三木市スポーツ協会70周年記念式典を10月14日に文化会館で開催する。式典後は記念講演「私の野球人生～野村、長嶋、星野監督に学んだこと～」を元プロ野球選手の広澤克実氏を招へいし、開催する。

(5) 学校教育課報告事項

○山口学校教育課長が次のように報告した。

第6回定例校園長会を9月3日に開催し、夏休み中に開催した未来を創る学力育成講演会のまとめとして、教員アンケートで講演内容について非常に満足度の高い結果であったことを報告した。不登校対策の取組として子どもたちのための教育フォーラム及び不登校担当者会についての報告を行い、子どもたちのための教育フォーラムにおいては不登校の未然防止の観点から魅力ある学校づくりについて話し合いがなされたこと、不登校担当者会においては2学期当

初の取組として改めて初期対応について確認したことを報告した。

(6) 教育センター報告事項

○計倉教育センター所長が次のように報告した。

夏休みの終わり頃になると、さまざまなことについて思い悩む子どもたちが増えており、その悩みが不登校へとつながるケースも少なくない。このため、不登校の未然防止の取組として、例年5月に配布する青少年悩みの相談のリーフレットを8月26日に市内の小中学校の児童生徒及びその保護者にデジタルで再度送信した。小・中学生からの電話相談等はなかったが、高校生から数件悩みの相談があり、兄弟関係通じてリーフレットを見たのではないかと推測している。

みつきいルームの現在の正式通級の児童生徒は中学生5人、小学生6人である。

専門研修講座「読み書きに困難のある児童生徒の支援について」を8月20日に教育センターで開催した。昨年度に引き続き一般社団法人読み書き配慮代表の菊田史子氏を招へいし、タブレットを活用した具体的な支援方法について説明を受けた。

青少年センターの実施した事業については、ネット見守り隊報告を8月29日に実施したが、今回も特に大きな事案はなかった。

10月は秋祭りのシーズンであり、補導委員による特別補導を随時行う。

(7) 小中一貫教育推進室報告事項

○武内小中一貫教育推進室長が次のように報告した。

三木特別支援学校のコミュニティ・スクール導入に向けた地域説明会を8月20日に三木商工会議所で開催した。三木特別支援学校については他の中学校区と異なり通学区域が市内全域であるため、役員に対し、より幅広い範囲から学校の支援が必要であること、中学部在籍時からのキャリア教育を充実させたいこと及び高等部卒業後の地域生活の充実が必要であることについて説明し、協力を依頼した。

小中一貫教育ワーキングチーム全体会を8月23日に開催した。ワーキングチームは、企画政策課、財政課、経営管理課、建築住宅課、教育総務課、教育施設課、学校教育課及び小中一貫教育推進室

の関係 8 課で構成する庁内の横断的な組織であり、それぞれの専門的な視点で意見交換を行いながら協同的に業務を進めているほか、必要に応じ、都市政策課、交通政策課、生活安全課及び危機管理課等とも連携している。

(8) 教育・保育課報告事項

○仲谷教育・保育課長が次のように報告した。

認定こども園 1 号認定児及び公立幼稚園の令和 7 年度の入園申込みを 9 月 2 日から 9 月 20 日まで受付しており、9 月 20 日朝の時点で昨年度と同様の約 50 人の申込みがあった。

みきっ子未来応援協議会の就学前教育・保育部会を 9 月 25 日に市役所で開催し、幼保一体化計画の見直し内容を説明する。見直し内容について承認を得た上で同協議会の全体会で説明し、承認を得た後、ホームページ等で公表する予定である。

日程第 9 その他 なし

日程第 10 次回定例会の開催日程について

教育長が、次回の教育委員会定例会の開催について諮り、令和 6 年 10 月 18 日午後 2 時から開催することを決定した。

(非公開)

日程第 5 協議事項 10 「三木市における学校部活動に関する地域クラブ活動への移行ガイドライン」(案)の策定について

日程第 6 協議事項 11 幼保一体化計画の見直しについて

協議事項 10 及び 11 は、三木市教育委員会会議規則第 5 条第 1 項ただし書の規定により非公開で審議したため、同規則第 31 条の規定により内容については記載しない。

閉 会

教育長が、令和6年9月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。

【令和6年9月三木市教育委員会定例会会議録】

教育長

署名委員

署名委員

記録者
